

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2022年度版)

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



USM（マレーシア科学大学）研修報告



活動の概要	<p>USM短期研修は「グローバル未来都市共創に資する次世代研究者エンパワメントプログラム」の一貫です。同プログラムは、すべての研究科のあらゆる研究分野の博士後期課程・博士課程学生を対象に選抜を行い、経済的な支援を行うとともに、学生個々の着実・堅実な研究力に上乘せる形で「プレゼン力」「交渉力」「合意形成力」「行動力」というスキルセットを獲得させること（エンパワメント）を目的としています。今年度より始まった本研修では、現在まだ顕在化していない問題も含めた、都市が抱えるさまざまな社会課題を通じてそれぞれの研究課題を俯瞰的にとらえる能力を鍛え、幅広い視野と情報発信力・交渉力を涵養することで、個々人のキャリア開発につなげるとともに、未来都市共創に資する新たな博士人材を創造することを目的としています。</p> <p>参加したのは、医学研究科から上木あかねさん、薬学研究科から藤田みのりさんの2名で、人間文化研究科の曾我幸代准教授と林敏博寄附講座准教授が引率しました。参加者は、事前にSDGsを学ぶ事前研修を受け、持続可能な社会づくりとは何かを考える機会をもったうえで、2022年9月12日から19日にかけて、マレーシア・ペナン島にあるマレーシア科学大学に赴き、約1週間の研修を受けました。この実施にあたっては、USMのJCC（Japan Culture Centre）の協力を受けています。</p> <p>USMでは、マレーシアが抱える文化・医療・難民・貧困・飢餓等の社会課題について、社会学部や生物学部の教授陣が講義をしてくださったり、難民が通う学校でのボランティア活動を行ったり、大学内にあるイスラム開発管理センター、麻薬センターや海洋センターを視察して、どのような問題を扱い、研究しているのかの概要説明を伺ったりしました。いくつかの講義や視察、市内のフィールドワークを経て、参加者は自らの専門知を生かして、最終プレゼンテーションを行いました。</p> <p>本研修の詳細については、別添の「USM研修レポート」をご確認ください。</p> <p>【参加した学生の感想（一部抜粋）】</p> <p>研修では、マレーシアの歴史や貧困に関する講義の聴講、難民学校でのボランティア活動、研究施設訪問（ハラル、薬学、海洋学）などを行いました。今回の研修を通じて、人種や宗教が違っていても争うことなくお互いを尊重しあうマレーシアの多文化共生について理解を深めました。最終日のプレゼンテーションは、日本が今後多民族・多宗教国家になった場合、管理栄養士として私にできることは何かについて考える良い機会となりました。</p>
活動の時期	2022年9月

[USM研修レポート（PDF ファイル 0.52MB）](#)



難民学校の子どもたち



Centre for Drug Researchのラボ見学



センター長、事務官、パティとのお別れ会

人文社会学部の学部生が国連女性の地位委員会（CSW）に参加



活動の概要	<p>2023年3月6日から17日、米国・ニューヨークの国連本部で行われた「国連女性の地位委員会」(UN Commission on the Status of Women) 通称CSWに、人文社会学部国際文化学科3年(参加時は2年)の田野詩織さんが参加しました。この会議は女性の地位向上を目的とした会議で、加盟国の代表や国連諸機関の他、協議資格のあるNGOの関係者らが出席します。田野さんはNGOの1つ「日本YWCA」の代表メンバーの一員として出席し、イベントの企画・発表などに携わりました。</p> <p>CSWにおいて、NGOは政府や国連機関に情報提供や提言を行う主体として、文書提出、発言、イベント実施等の役割を担っています。田野さんら日本YWCAのメンバーは、「ソーシャルメディアと性的搾取：日本の若い女性の視点から」というタイトルで、本会議と並行して行われる英語でのパラレルイベントを主催しました。オンラインZoomと現地ニューヨークのハイブリット開催で、オンラインと対面合わせて合計100人ほどが参加しました。</p> <p>発表の中でも特に高い関心が寄せられたのは、子どもの性的被害防止アプリ「コドマモ」。このアプリは、愛知県警の依頼で藤田医科大学とアプリ提供会社スマートボックスが開発し、子どもが自撮りしたわいせつ画像をAIが自動検知し削除を促すとともに、保護者に通知することで写真送信を未然に防ぐというものです。国内のTV、新聞などで報道されたほか、海外でもインドの全国紙『Dainik Jagran』、その他複数のウェブ記事で取り上げられるなど大きな反響がありました。</p>
活動の時期	2023年3月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/sdgs-practice/05261437/

PICo project 2022 本格始動！



活動の概要	<p>本学を中心とした医療系学生と愛知県、愛知県周辺の医療者・教育施設が相互に意見を出し合い、医療系学生に新しい教育プログラムを提供し、新しい学びの場を作り出すためのプロジェクトである「PICo project (※)」が2022年度もスタートします。</p> <p>このプロジェクトは、医学生の学びたいという意欲に対して、後進により良い医療を提供してほしいという医療者の熱意で2021年度より発足しました。</p> <p>2022年度は医学生に加え、薬学部生、看護学部生を対象としたプログラムも加わり、医療系学生全体に向けたより魅力あるPICo projectに進化しました。</p> <p>詳細は PICo projectのWEBサイトをご確認ください。</p> <p>(※) PICo: Passion = 学ぶ側・教える側の熱意、Innovation = 既存の枠にとらわれない革新、Co-Creation = 学生・指導の先生方・施設による“共創”</p>
活動の時期	2022年度
関連URL	PICo project WEBサイト



カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションに参加



活動の概要	<p>本学は、「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加しました。</p> <p>これは、2021年7月に文部科学省、経済産業省および環境省が先導し、カーボン・ニュートラルに向けた積極的な取り組みを行っている、または取り組みの強化を検討する大学等による情報共有や発信等の場として設立されたものです。</p> <p>5つあるワーキンググループのうち、本学は「人材育成ワーキンググループ」に登録しました。</p> <p>全国の大学等と連携しながら、引き続きカーボンニュートラル達成に向けた取り組みを展開してまいります。</p>
活動の時期	2022年8月以降
関連URL	カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション

中日SDGsフェアに参加



活動の概要	<p>本学は、2022年8月20日（土）にウインクあいちで開催された「中日SDGsフェア」（中日新聞社主催）に参加しました。このフェアは、小学生・中学生等の子どもたちや市民がSDGsについて身近に感じられるよう企画されたものです。当日は、およそ600名の方が来場しました。</p> <p>ブースでは、本学のSDGsに関する様々な活動について、チラシやパネル等で紹介しました。ブースを訪れた来場者の方々は展示内容を熱心にご覧になっていました。</p> <p>また当日は、大学生が「SDGsアンバサダー」となって企業・団体のSDGsの取り組みを取材し、その内容についてプレゼンテーションを行う企画も開催されました。本学からは有志が集まった経済学部1年生と人文社会学部1年生の合同チームが参加し、ナゴヤハウジングセンター様のSDGsの取り組みについて取材内容をプレゼンしました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	中日SDGsフェア



ブースの様子



学生によるプレゼンテーションの様子

SDGs将来世代創造フォーラム2022に参加



<p>活動の概要</p>	<p>本学は、2022年8月24日に吹上ホールで開催された「SDGs将来世代創造フォーラム2022」(アサヒ飲料中部北陸支社主催)に参加しました。当日は、「健康」「環境」「地域共創」をテーマに、産学官から約50のブースが出展されました。</p> <p>本学のブースには、人文社会学部曾我准教授と曾我ゼミの学生3名が参加し、「SDGs達成に向けて自分ができること」を考えるワークショップを行いました。</p> <p>また、本学のSDGsに関する様々な活動について、チラシやパネル等で紹介しました。</p> <p>【ワークショップ参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ自動車ではなく公共交通機関を使う ・異常気象、気候変動を防ぐために、エアコンと扇風機を合わせて使う ・自然災害に備え、防災に取り組む ・海洋プラスチックごみを減らすために、ビニール袋をもらわずにエコバッグをつかう ・貧困や飢餓に苦しむ人たちのためにフードドライブやフェアトレードなどに参加し、問題の解決に寄与する
<p>活動の時期</p>	<p>2022年8月</p>
<p>関連URL</p>	<p>アサヒ飲料中部北陸支社 「SDGs将来世代創造フォーラム2022」</p>

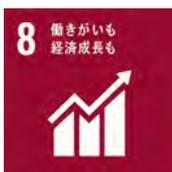


ようこそ大学へ！プロジェクトを開催しました



活動の概要	<p>2022年8月8日、名古屋市内の児童養護施設などで生活する子どもたちを大学へ招いて学習支援や進学への動機づけを目的とした大学体験企画「ようこそ大学へ！プロジェクト」を開催しました。当日は感染症対策のため午前・午後の二部制として、小学生から高校生の子どもたち合計78名が参加し、ボランティアの学生は、人文社会学部の学生102名が参加しました。また今年は、子どもたちが楽しみにしている学食体験を再開することができました。子どもたちはボランティア学生とペアになり、「一日名市大生」として実験体験や研究室訪問等を行いました。名古屋市からの依頼で始まった本イベントも今年で10年目を迎え、ボランティアの学生たち協力のもと、今年も参加した子どもたちの楽しそうな声を聞くことができました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.45

就活生応援 身だしなみセミナーを開催！



活動の概要	<p>2022年11月10日、本学は花王グループカスタマーマーケティング株式会社様と連携し、「就活生応援身だしなみセミナー」を開催しました。これは、名古屋市が設置している「名古屋市SDGs推進プラットフォーム」の会員間交流の一環として実現したものです。</p> <p>SDGsのGoal5（ジェンダー平等を実現しよう）及びGoal8（働きがいも経済成長も）達成に向け、企業等への就職に向けて、性別問わず幅広く「社会人としての身だしなみ」について学ぶ内容でした。当日は、男女合わせて32名の学生が参加し、花王グループカスタマーマーケティング株式会社様の講師の方から、スキンケア、メイク、ウェブ面接対策など、学生たちの就職活動に必要な身だしなみの具体的な方法について学びました。</p> <p>SDGsセンターでは、今後も、SDGsをキーワードに、企業等との連携を進めてまいります。</p> <p>【当日参加した学生の声（一部抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none">・わかり易い丁寧な説明で、大事なポイントをおさえながら話を聞く事ができました。・男性もBBで身だしなみを整える時代は、男女が平等な感じでいいと感じました。・就活生ではないですが、将来の就職活動のために、早めに知ることができて良かったです。数年後の将来に向けて今からできることをしていこうと思います。・Webでの就活が増えた事で、メイクなど疎かになっていましたが、セミナーを聞いてしっかり身だしなみを整えてから臨もうと思いました。
活動の時期	2022年11月
関連URL	名古屋市SDGs推進プラットフォームWEBサイト



国際交流センター主催講演会「岐路に立つドイツのエネルギー政策」を開催



活動の概要	<p>2022年11月11日、本学は国際交流センター主催講演会「岐路に立つドイツのエネルギー政策 欧州の最新事情から日本の今後を読み解く」を開催しました。講師に本学協定校のルートヴィクスハーフェン経済大学よりフランク・レーヴェカンプ教授をお招きしたこの講演会には、本学学生・教職員合わせて36名が参加しました。</p> <p>当日は、講師による欧州情勢やクリーンエネルギー開発を含めたエネルギー問題等に関する講義の後、参加者とのQA、フリーディスカッションが行われました。参加者からは、今後のエネルギー戦略等に関する積極的な質問や発言がありました。</p>
活動の時期	2022年11月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/english/news/2022111402/



「SDGs探検隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～」実施報告



<p>活動の概要</p>	<p>株式会社愛知銀行との連携事業として、SDGsをテーマにした講座を下記のとおり実施しました。</p> <p>タイトル SDGs探検隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～ 日時 2022年12月10日 午後1時30分から午後4時30分 場所 滝子（山の畑）キャンパス NCUホール 受講者数 20名（愛知県内の小学3年生から6年生） 担当教員 人間文化研究科 曾我幸代 准教授 サポーター 大学生5名、大学院生1名、愛知銀行行員4名</p> <p>午後1時30分から午後1時45分 挨拶（愛知銀行） 午後1時45分から午後2時10分 SDGsの説明（曾我准教授） 午後2時10分から午後2時20分 今日の活動の説明（名古屋市立大学人文社会学部生） 午後2時20分から午後3時10分 キャンパス内外でのフィールドワーク 午後3時10分から午後3時20分 会場にもどる 午後3時20分から午後4時00分 データの整理、報告内容の検討 午後4時00分から午後4時30分 グループごとに発表（1グループ5分程度）& 講評</p> <p>冒頭で愛知銀行からご挨拶を頂いた後、参加者らは座学でSDGsとは何か、なぜ今必要とされているのかを学びました。本企画に携わった人文社会学部生から、フィールドワーク中の活動について説明がなされ、また注意事項の確認がなされたあとで、グループごとに名古屋市立大学滝子キャンパス内外を歩きました。</p> <p>参加者はサポーターである大学生や愛知銀行の行員らとともに滝子キャンパス内外を散策し、SDGsの17のゴールに関わることを探しました。散策中に見つけた内容を「SDGs探検ノート」に書き込みながら、制限時間いっぱいまで外での活動を楽しんだ後、会場に戻り、フィールドワークで探してきたSDGsに関わることを整理しました。それをレーダーチャートに書き込むと、それぞれの形が浮かびます。そのあとの報告では、レーダーチャートを見せながら、どのようなSDGsに関わることを探し、気づいたことは何かを全体に発表しました。「意識することが大事」「ゴミ拾いをしたいと思いました」「グループの人たちのそれぞれの形が違ってました」などの感想が共有されました。</p> <p>SDGsは小学校で学びますが、自らとは関係のないところで起きている問題、遠いところの問題と認識している人も少なくありません。しかし、SDGsに関わることは私たちが意識していないだけで、身のまわりに数多くあります。そうしたことに気づき、SDGsの大切さを知るための機会が今回の講座でした。何よりもサポーターとして関わってくださった愛知銀行の行員のみなさんや付き添いで同行された保護者のみなさんにも、子どもたちの活動や言葉からはっとさせられたり、学びがあったりしたことが大変うれしかったです。私たちの生活の身近なところであることを探して、実践すること、そうした積み重ねによりSDGsの達成に少しでも関わられることを願っております。</p> <p>参加してくださった小学生のみなさん、サポートしてくださった大学生、行員のみなさん、ありがとうございました。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2022年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p>https://www.nagoya-cu.ac.jp/science_news/12120946/</p>



名古屋市立萩山中学校、矢田中学校の生徒が本学人文社会学部曾我研究室を訪問



<p>活動の概要</p>	<p>2023年1月26日木曜日に名古屋市立萩山中学校から2年生6名、2023年1月27日金曜日に名古屋市立矢田中学校から2年生5名が本学人文社会学部心理教育学科曾我研究室を訪問しました。SDGsの学びが中学校でも始まるようになり、探求学習の一環としての訪問でした。</p> <p>26日に訪問した萩山中学校の6名は、はじめに自己紹介をした後で、これまでの自身の学びである「フェアトレード」についてパワーポイントを使って発表しました。発表を聞いて、いくつかの質疑応答をした後で、SDGsやESDについて事前に受けていた中学生からの質問に応えました。訪問を終えた中学生からは、後日丁寧な手紙が送られてきました。手紙には、訪問を通して学んだことがそれぞれ書かれていました。</p> <p>27日に訪問した矢田中学校の5名は、「途上国と先進国の教育事情の違い」に関して事前に提出していた項目をもとに質問し、その応答から世界の子どもの教育環境についての理解を進めてきました。矢田中学校からの依頼は、本学SDGsセンターへの問い合わせから始まりました。連絡をくださったキャリアコーディネーターの方から、SDGsに関連する諸活動をしている本学大学生とぜひ交流させたいという強い思いのもと実現しました。当日、曾我准教授の他に、昨年度からSDGsに関する取り組みをしていたゼミ生2名（関連URL①）が参加し、その取り組み（関連URL②）を話しました。また、SDGsセンターから林秀敏センター長も同席しました。後日、訪問を通して学んだことが書かれた丁寧な手紙が届けられました。</p> <p>SDGsに関連する学びは各職種で実施されていることから、こうした校種間交流が今後も増えていくことが予想されます。今回、中学生は大学生や大学教員と交流することで多くを学んでいました。同様に、大学側も中学生を通して中学校でどのような学びをしているのかを知る機会となりました。こうした学びの機会が創出されることも、SDGsに関する学びの一つの成果とも言えるかもしれません。今後こうした機会を通して、学びの形態が広がっていくことを期待したいと思います。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2023年1月</p>
<p>関連URL</p>	<p>① 本学学生がSDGs IDEA FORUM 2021で優秀賞を受賞！</p> <p>② 「SDGs探検隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～」の実施報告</p>



萩山中学校からの訪問



矢田中学校からの訪問

「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」を開催



活動の概要	<p>2023年2月、本学は「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」を開催しました。これは、環境省採択事業「教育機関と連携した地域再エネ導入促進及び地域中核人材育成研修」の一環として、経済学研究科の鵜飼教授、徳光助手とSDGsセンターが連携して開催したものです。経済学部及び人文社会学部の学生9名が参加し、再生可能エネルギーの領域で先進的な取り組みを行っている東海地区の企業や地域への視察・フィールドワーク等を行いました。</p> <p>3月には、同じ環境省主催研修に参加している全国15大学の学生との全体交流会が開催され、参加した学生から今回の研修の成果について報告しました。</p>
スケジュール	<p>Day1 (2月7日) :【講義】株式会社ウェストボックス Day2 (2月8日) :【視察&講義】おひさま自然エネルギー株式会社 Day3 (2月14日) :【視察&講義】みなとアクルス、名古屋環境局 Day4 (2月17日) :【グループワーク】中間振り返り Day5 (2月20日) :【フィールドワーク】錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト Day6 (2月22日) :【フィールドワーク】錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト Day7 (2月24日) :【グループワーク】最終振り返り</p>
活動の時期	2023年2月



Day2 おひさま自然エネルギー株式会社いなば営農発電所視察



Day3 みなとアクルス視察



Day6 錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクトの方々とのディスカッション



Day7 最終振り返りグループワーク

SDGs IDEA 研究会を開催



<p>活動の概要</p>	<p>本学は、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2022」を名古屋市と共催しています。この活動の一環として、2022年12月14日に、SDGs IDEA 研究会を開催しました。</p> <p>当日は、SDGs IDEA FORUM 2022にエントリーしている名古屋市内の学生36名が参加しました。賛同企業による企業紹介、SDGs IDEA FORUM 2021最優秀賞受賞チーム（南山大学 ロバートゼミ「フードロス×教育」）によるプレゼンテーションの後、参加学生同士の交流会が行われ、1月15日提出期限のアイデアシート作成に向けた情報交換が行われました。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2022でアイデアを募集する4つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジェンダー平等を実現する社会づくり ●地域コミュニティが活性化するまちづくり ●サステナブルな観光都市名古屋の実現 ●脱炭素社会をめざすまちづくり
<p>活動の時期</p>	<p>2022年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p>SDGs IDEA FORUM 2022 WEBサイト</p>



新型コロナウイルスワクチン接種大規模集団接種（名古屋市）への医療従事者派遣



活動の概要	<p>本学は、新型コロナウイルスワクチンの接種機会提供のため、名古屋市が実施した大規模集団接種へ本学より医師・歯科医師・看護師・薬剤師を延べ5,281人派遣し、予診・接種・薬剤管理等の業務に従事しました。</p> <p>●名古屋市瑞穂公園陸上競技場（パロマ瑞穂スタジアム） 令和3年7月1日に、新型コロナウイルスワクチンの接種（1・2回目接種）に対応するため、名古屋市瑞穂公園陸上競技場（パロマ瑞穂スタジアム）に大規模集団接種会場が開設され、同日から10月20日までの延べ112日間実施されました。 令和3年6月10日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ2,939人を派遣しました。</p> <p>●名古屋国際会議場 令和4年2月9日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3回目接種）に対応するため、名古屋国際会議場（国際会議室）に大規模集団接種会場が開設され、同日から3月13日までの延べ31日間実施されました。 令和4年1月11日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ362人を派遣しました。 本ワクチン接種事業への貢献に対し、令和3年10月21日に実施された閉場式において、名古屋市より本学に感謝状が贈呈されました。</p> <p>●日本ガイシフォーラム 令和4年4月15日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3・4回目接種）に対応するため、日本ガイシフォーラムに大規模集団接種会場が開設され、同日から7月17日までの延べ49日間（6月1日から7月7日まで休場し、7月8日に再開。）実施されました。 令和4年2月18日及び5月10日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ698人を派遣しました。</p> <p>●イオンタウン有松 令和4年7月20日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（4回目接種）に対応するため、イオンタウン有松に大規模集団接種会場が開設され、同日から8月31日までの延べ43日間実施された。 令和4年5月10日に名古屋市健康福祉局より医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ478人を派遣しました。 また、令和4年11月11日には、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（オミクロン株対応2価ワクチン）に対応するため、同会場に大規模集団接種会場が開設され、同日から令和5年1月31日までの延べ71日間実施されました。 令和4年9月9日及び10月31日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ708人を派遣しました。</p> <p>●名古屋市立大学（看護学部棟1階） 令和4年12月3日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（オミクロン株対応2価ワクチン）に対応するため、本看護学部棟1階に接種会場が開設され、12月3日、4日、10日、11日、17日、18日、24日、25日の延べ8日間実施されました。 令和4年10月24日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学の看護学部棟を接種会場として提供するとともに、本学から実施期間と同期間、延べ96人を派遣しました。</p>
活動の時期	2021年度（令和3年度）～2022年度（令和4年度）
関連URL	新型コロナウイルス感染症対応記録集 第4章 大学病院群